

自転車新時代の創造－「交通手段化計画から利用環境整備」へアプローチする

自転車政策の検証と目玉政策化の推進 －高齢者移動と観光への利活用方策

- 高齢者の移動特性に合う自転車－その安全性、有効性とメリット・効果
- 自転車が生む「創造的観光」－主体的・健康的・エコ的観光の条件と施策(サービス)
- 選択肢としての自転車利用－交通事故データからみた高齢者の自転車利用特性

[日時] 2013年5月23日(木) 13:00～16:50 [会場] 日本教育会館・会議室(東京・千代田区)

[講師] **古倉 宗治氏** (株)三井住友トラスト基礎研究所研究理事 京都大学法科大学院講師
麗澤大学客員教授 自転車まちづくりフォーラム実行委員会メンバー

[コメンテーター] **西田 泰氏** 公益財団法人交通事故分析センター 研究部特別研究員兼研究第一課長
元・科学警察研究所交通科学部長

時	講義内容	
13:00 }	I. 自転車を活用しての観光の方策 ①自転車による観光のメリット — メリットは意外に大きい、これを生かすことが大切 ②自転車による観光の誤謬 — しかし、自転車を導入すればすぐに自転車が活用されるという誤解がある ③自転車による観光に必要な条件 — 単発の施策より総合的な施策が必要、ハード・ソフトの両面のみでも足りない、おもてなしの精神を自転車にも ④自転車による観光の施策の実施状況 — 自転車観光の重要な要素について事例の評価 ⑤自転車による観光の具体的方策(新しいコンセプト) — 今後の自転車観光のあり方を提示 ⑥結論 (環境の整備と自転車ではできない観光をめざす)	古倉 宗治氏
	II. 自転車を活用しての高齢者の移動の促進 ①高齢者化社会を迎えたまちづくりの困難性 — もはや自動車による移動は限界である ②一石三鳥の自転車活用 — 高齢者の移動に自転車を活用することは三つの同時のメリットがある ③高齢者の自転車利用の状況 — 高齢者は自分の足として自転車に頼っている ④高齢者の自転車利用の安全性に関する誤解 — 十分な対策と意識の向上で安全性は保てる ⑤自転車が高齢者の移動手段として適している理由 — 移動の距離がのびる、ひざの負担が少ない、ルールを遵守する ⑥高齢者に自転車利用を促進する必要がある理由 — 自助による移動、生活習慣病の回避、車よりも安全、経済性等 ⑦高齢者に自転車利用を促進するために必要な環境整備 — 自転車の調達の支援(電動アシスト、三輪車等)、幅の広い専用空間の整備、自らの走行・駐輪マナー・ルールの改善等とともに、事故の相手方9割の自動車のドライバー教育 ⑧高齢者の自転車による相当距離の移動の可能性 — 高齢者は都市内の自動車移動の半分は自転車で行ける距離である	
15:00 }	III. [コメント] 高齢者と自転車利用 ～交通事故データからみた高齢者の自転車利用特性～ ①高齢者の自転車事故 — 免許保有者の自転車事故 ②世代と自転車利用 — 女性と自転車 ③地域と自転車利用 — 都市部の自転車 ④これからの自転車利用 — 選択肢としての自転車	西田 泰氏
15:10 }	IV. 参加者との意見交換(質疑応答) 参加者との意見交換、質疑応答を通して、自転車の近未来像や施策を考える場です。	古倉宗治氏 / 西田泰氏

略歴: 建設省、東京工業大学助教授、(財)民間都市開発推進機構都市研究センター、(財)土地総合研究所等を経て、現職。自転車の利用促進策の研究により2004年学位(博士(工学))を取得。国土交通省・警察庁、地方公共団体の多数の自転車関係の委員等を歴任。単著に「成功する自転車まちづくり」(学芸出版社。不動産ジャーナリスト会議賞、日本環境共生学会賞受賞)、「自転車利用促進のためのソフト施策」(ぎょうせい)など。

I. 健康でエコな自転車を観光の目玉に活用しようとする動きが活発化している。しかし、多くは、自転車の視点からではなく、観光の視点から捉えており、自転車の利用環境を整えるという自転車政策の観点がないものが多い。このため、レンタサイクルを用意さえすればよいなどと安易に考えているケースが見受けられる。自転車の安全・快適な走行環境や目的地での放置をなくす駐輪環境、自転車による観光でメリットのある場所やサービス、走行ルートなど正確な情報や地図の提供、クルマとの連携、観光目的の自転車利用を奨励するのかどうかなどの総合的な観点など、自転車利用の視点が欠如しているケースが見られる。このため、自転車がせっかく持っているメリットが観光に生かせていない。そこで、観光の目的から自転車を効果的に活用する方策を提案するものである。

開催趣旨

II. 今まで自動車を前提としたまちづくりが行われ、都市計画道路等も自動車をいかに効率的に通行させるかを目指して整備が進められてきた。しかし、急速に進む高齢化社会において、特に既成市街地から離れた郊外立地の団地等では、買物難民、通院難民等に陥る高齢者が増加している。一方で、中心市街地に自転車を買物に来る年齢層は、高齢者が半分以上となっている都市もある。このように、高齢化社会を迎えた都市では、自動車に頼り切った都市構造から、自転車を有効に活用したまちづくりが喫緊の課題である。このため、高齢者の自転車利用をどのように考え、対処するのかという現実的に重要な課題がにわかに浮上してきている。そこで、高齢者の自転車利用の安全性、有効性、大きなメリット等これまで正面から取組んでこなかった事項について、焦点を当てて、高齢者の自転車利用の可能性があると同時に、それ以上に高齢化社会を迎えての高齢者の足の確保や医療費・介護費の削減等に寄与することを明らかにするものである。<古倉 宗治>

【オムニバス講座開催実績】

- ① 「地方圏生活交通の維持・再生における行政・事業者の役割と連携」 鈴木文彦氏 / 交通ジャーナリスト(2009. 8)
- ② 「コミュニティ交通の計画・運営・評価の手法とプロセス」 元田良孝氏 / 岩手県立大学(2010. 3)
- ③ 「地域の活力向上・再生に資する公共交通マネジメント」 加藤博和氏 / 名古屋大学(2010. 5)
- ④ 「地域公共交通のガバナンス」 轟朝幸氏 / 日本大学(2010.10)
- ⑤ 「地域公共交通の再生戦略」 中川大氏 / 京都大学(2012. 1)
- ⑥ 「生活交通のマネジメント」 吉田樹氏 / 福島大学(2012. 7)
- ⑦ 「地域生活交通のサービス産業化」 谷島賢氏 / イーグルバス(2012. 10)
- ⑧ 「地域公共交通としてのデマンド交通」 / 鈴木文彦氏(2012. 11)
- ⑨ 「地域公共交通の需要開発と行政・議会・事業者のコラボレーション」 / 大井尚司氏(2013. 3)